



日本語の最初のオペラ

1940年初演



Opera 細川ガラシア全三幕

"HOSOKAWA GRAZIA" IN 3 ATTI

2016年10月15日 調布市グリーンホール大ホール 上演

脚本 ヘルマン・ホイヴェルス 作曲 ヴィンチェンツォ・チマッティ
Testo Herman Heuvers Musica Vincenzo Cimatti

定価

3000円(外税)

カラー

132分

お求めはドン・ボスコ社、またはチマッティ資料館へ
チマッティ資料館

〒182-0033 東京都調布市富士見町3-21-12 サレジオ神学院内
TEL:042-482-3117 FAX:042-490-6707 HP:<http://www.v-cimatti.com/>

細川ガラシアの年譜

- 1563年 玉子、織田信長配下の武将明智光秀の三女として生まれる。
1579年3月 16歳で細川忠興に嫁ぐ。

第一幕 ◆ 蓮の花 ~序~

- 1582年3月 本能寺の変で玉子の父明智光秀が織田信長を襲撃し、信長は自害する。今度は秀吉が天下を握る。「謀反者の娘」である19歳の玉子は忠興から離縁され、二人の幼児と共に丹後の山里味土野に幽閉される。そこで玉子は人生のむなしさを強く感じる。なぜ自分はこんな状態になるのだろうか。
- 1583年 この時、大阪城が築城され、忠興も高山右近もそれに協力する。彼がオルガンチノ神父を秀吉に紹介し、大阪城下に教会をたてるのが許される。
- 1584年 玉子は復縁を許され、大阪の玉造の屋敷に住むようになる。

第二幕 ◆ 桜の花 ~破~

- 1586年 大阪に住んでいる玉子は、そこで夫忠興から高山右近の信仰の話聞き、その生き方に魅せられる。
- 1587年3月19日 忠興が秀吉に従って九州へ出陣する(九州征伐)。玉子は、彼岸の時期であることを利用し、侍女たちに囲まれて身を隠して教会を訪れる。そこで説教を聞き、コスメ修道士にいろいろと質問をする。修道士は「これほど明晰かつ果敢な判断ができる日本の女性と話したことはない」と書いた。彼女は洗礼を受けたかったが、二度と教会を訪れることができず、侍女たちを通じて教会とやりとりをし、送られてくる書物を読みながら信仰に励む。そして、マリアをはじめ侍女たちが洗礼を受けるようにした。
- 1587年6月10日 急に気持ちが変わった秀吉が伴天連追放令を出す。高山右近は、棄教を迫られて拒否したため領地を失い、身を隠してしまう。

第三幕 ◆ 天の花 ~急~

- 1587年の秋 宣教師がいなくて洗礼を受けられない玉子は、前もってセスペデス神父の許可を得て自邸でマリアから洗礼を受ける。洗礼名は「ガラシア(神の恵み)」となる。その後、次第に宣教師たちが戻り、隠れていた高山右近も復帰する。
- 1597年2月5日 秀吉の命令により長崎で二十六聖人が殉教する。
- 1598年 秀吉が62歳で亡くなる。それによって徳川家康が天下をねらう。
- 1600年7月17日 家康が勢力拡大を狙い、独断で会津の上杉の征伐に出る。細川忠興も彼に従う。家康の打倒を狙う大阪城の大老石田三成は玉造の細川屋敷にいるガラシアを人質にとろうとする。彼女はそれを拒絶する。翌日、三成が実力行使で屋敷を囲ませる。ガラシアは祈った後、侍女と婦人たちを集め「わが夫が命じた通り自分は死ぬ」と言い、わが子・多良と彼女たちを教会に送る。少斎は忠興の命令を実行し、屋敷に火を放ち、ガラシアを刺し、全員命を落とす。ガラシア辞世の歌は、「散りぬべき時しりてこそ、世の中の花も花なれ人も人なれ」であった。オルガンチノ神父は、信仰の篤い婦人たちを焼け跡に遺わし、ガラシア夫人の遺骨を受け取り、深い悲しみと感銘のうちに哀悼ミサをささげて埋葬する。石田三成は関が原の戦いで破れる。



各種楽譜「チマッティ資料館」「ドン・ボスコ社」にて発売中!

Vol.1	ピアノソナタ 国の聲 (No.784) など四つのピアノソナタ	1500円
Vol.2	アヴェマリア (No.191) よく歌われる2部合唱と4部合唱の名曲	800円
Vol.3	Ave Maria di grazia piena (No.372) ソロ(S.T.)のための名曲	500円
Vol.4	オペラ「細川ガラシア」(No.22) 190p	5000円
Vol.5	オペレッタ「カルマ」(No. 24) 88p	3500円
Vol.6	オペラ「支倉六右衛門」(No. 23) 80p	3500円

注文はチマッティ資料館とドン・ボスコ社にて承っております。
詳細はホームページ (<http://www.v-cimatti.com/>) をご覧ください。